

報告事項ス

平成25年度韓国江原道との児童生徒交流について

平成25年度韓国江原道との児童生徒交流について、別紙のとおり報告します。

平成25年10月28日

鳥取県教育委員会教育長 横 濱 純 一

平成25年度韓国江原道との児童生徒交流について

平成25年10月28日

小 中 学 校 課

高 等 学 校 課

- 1 目 的** 韓国江原道と鳥取県との教員交流の実績をもとに、児童生徒の交流を行い、相互理解と友好を深めるとともに、国際感覚豊かな児童生徒の育成を図る。
- 2 期 日** 平成25年9月10日（火）～9月13日（金）
- 3 訪問団** 江原道児童生徒20名（小学生6名、中学生7名、高校生7名）
引率教員等5名（校長、教頭、教師、通訳教師、奨学士）

4 交流の概要

	主 な 行 程
9月10日（火）	・韓国仁川空港－米子空港 ・鳥取市内宿泊
9月11日（水）	・教育長表敬訪問（鳥取県教育委員会） ・【小学生】智頭町立智頭小学校訪問交流 ・【中学生】鳥取市立鹿野中学校訪問交流 ・【高校生】県立鳥取商業高等学校訪問交流 ※各校で昼食、授業参観、交流会等 ・児童生徒は訪問校の家庭にホームステイ
9月12日（木）	・山陰海岸学習館見学 ・大山青年の家で日吉津小学校5年生と交流 ・米子市内宿泊
9月13日（金）	・米子空港－韓国仁川空港

※交流の詳細については、別添資料のとおり。

（参 考）

平成7年度に鳥取県教育委員会と江原道教育庁との間に姉妹結縁協定が結ばれ、平成8年度から相互に教員交流を実施。

児童生徒交流は平成13年度から相互に実施しており、昨年度は9月11日から14日に江原道を訪問（小学生6名、中学生7名、高校生7名、計20名＋引率者5名）。

(別添資料)

平成25年度 韓国江原道との児童生徒交流【訪問校での交流の詳細】

【教育長表敬訪問】

江原道生徒代表挨拶より

「鳥取の友達と会う日を非常に楽しみにしていた。今回の交流を通じて日本と韓国の交流における『礎』になるように頑張りたい」



【智頭小学校訪問】



(昼休憩、廊下で韓国女子児童3名を囲んで)

4校時授業参観の後、給食。昼休憩からサッカーや会話等の交流が始まる。午後の始まりは智頭小学校高学年による組体操の披露に感動。

その後、6年生同士で交流会を開催。まずお互いの学校の様子について発表し、互いに関心のあるスポーツや音楽などの情報交換で共通点を見出し、喜びを共有した。

小さな学校が統合してできた智頭小と、大きな学校が分かれてできた萬垈小は、対照的な誕生の仕方であったが、そのことで友だち関係に変化があったことをどう受け止めているかについて意見交換し、改めて、今とにりにいる友だちの存在や大切さについて考えることができた。

最後に手つなぎ鬼をして、みんな歓声をあげながら、仲良く手をつないで、体育館中を駆け回った。智頭小の子どもも江原道の子どもも満足した様子であった。

【鹿野中学校訪問】



歓迎行事や校舎案内を行い、給食の後、授業体験や生徒同士の意見交換会を行った。

2年生の総合的な学習の時間の箏のグループの授業に江原道の生徒たちが参加。鹿野中の生徒の歓迎演奏を聞いたあと、江原道の生徒1人に鹿野中の生徒が1、2人がついて、「さくら」を教えた。江原道の生徒たちは意欲的に練習に取り組み、ほとんどの生徒が最後まで曲を弾くことができた。授業の最後には江原道の生徒と鹿野中の生徒とで合奏をすることができ、とても和やかな雰囲気の中で交流をすることができた。

意見交換会では「仲間づくり」をテーマとして話し合った。鹿野中学校と倉村中学校は学校の規模や環境などがよく似ていて、縦割りの学習（異年齢の関わり）や地域との関わりなど共通する話題が交わされた。両中学校とも小学校と中学校が町内に一つしかなく、小学校からの友人関係がずっと続いているので、大きないじめなどの問題は起こっていないということだった。また、先輩や後輩との関係もどちらの学校も良好であるという話であった。

【鳥取商業高校訪問】



（意見交換会、左側が江原道側）

歓迎式、学校紹介、昼食の後の「ケータイ・インターネットについて」の意見交換会では、日韓の高校生活も含めて次のような意見が出された。

- ・ 韓国の高校では、朝登校すると担任の先生に携帯電話を預け、帰宅するとき（夜10時頃）に返してもらう。したがって、1日に携帯電話を使える時間は限られている。休日に長時間使う人が多い（3年生は休日も勉強）。
- ・ 日本では、ソーシャルネットワークサービス絡みで事件に巻き込まれることがある（韓国も同様）。
- ・ 韓国では受験勉強がはげしく、ストレスをためている高校生が多い。

- ・ 日本でも韓国でも、いじめは社会問題となっている。（ウェブ上での中傷が多い。）
- ・ 日本の高校生は、部活動に励んでいる生徒が多く、それなりに充実している。（その分、韓国ほど勉強していない。）等々

他国の高校生と意見交換をすることによって、あたりまえとっていた自分たちの生活が相対化され、よい点、改善すべき点が見えてきたようであった。有意義な意見交換会であり、生徒たちは満足していた。

その後、ホームステイ先の生徒のクラスで授業を受け、例えば、1年4組の国語総合では、漢文を英語で示すなど、配慮された授業を体験した。

【その他の交流】

大山青年の家で宿泊体験中の日吉津小学校5年生と、1時間余りの交流活動を行った。グループ対抗の室内レクリエーションを通じて、身振り手振りで親睦を深めることができた。

また、昨年度韓国への児童生徒交流に参加した3名の児童生徒から、今回来日している学生たちに会いたいとの申し出があり、それぞれ1年ぶりの感動の再会を果たした。



（写真左端が昨年韓国を訪問した男子）